

第4回 港区生物多様性推進委員会 議事要旨

日 時 平成25年9月4日(水)

18:00～20:30

場 所 港区役所9階 914会議室

出席者 一ノ瀬 友博 委員長

中村 俊彦 副委員長

川廷 昌弘 委員

草刈 秀紀 委員

芳賀 勲 委員

土方 直美 委員

平川 幸子 委員

本田 裕子 委員

榊中 多賀子 委員

峰崎 善次 委員

村上 暁信 委員

矢野 亮 委員

山田 順之 委員

港区 環境リサイクル支援部長

環境課長

環境課緑化推進担当 3名

欠席者 河野 博 委員

三井 知之 委員

開 会

1. 環境課長挨拶

ー環境課長より、委員会開催の挨拶、配布資料の説明を行った。

2. 議事要旨・発言要旨

委員長

審議事項が多いため、今回も 30 分延長する。章に分けて議論を進めるが、特に 3～5 章が重要。資料編等についても議論する。

(1) これまでの検討経過と素案の概要について

ー事務局より、資料 1（スケジュール）について説明し、質疑応答を行った。

委員長

勉強会にご協力いただいた方に感謝する。次の委員会はパブコメ後になるので、できるだけ今回意見を出していただきたい。

委員

タイトルについて、“みなとプラン”ではなく“みなと区プラン”がよいのでは？どこの“みなと”かわからなくなる。

事務局

名称は仮であるので、ぜひご意見をいただきたい。分かりやすい名称にしたい。なお、名称はフィックスしてパブコメにかける。

(2) 第 1 章、第 2 章について

ー事務局より、1 章と 2 章について説明し、質疑応答を行った。

委員

6 ページのチョウは、キチョウではなくキタキチョウが正しい。昭和、平成など年号がいろいろ入っているため、わかりにくい。西暦と併記する方がよい。「愛知目標」のページでは西暦が前記されている。これに統一した方がよい。

委員

同じ意見を、毎回出すことになるので、前回出した意見の意見と対応の対照表が必要。再度の指摘だが「はじめにの部分はどうするか？区長の意気込み等を書いたらよいのでは？6 ページの「生物多様性は生きものがたくさんの種類の生きものがいることです」は表現が間違っている。

委員

生物多様性基本法をきちんと理解しておくことが重要。基本法 13 条に基づいて進めていることを記述すべき。

事務局

資料 3 に資料編の目次を示している。読みやすくするため、参考資料、用語説明等をあとに付ける形で進めていきたい。何を載せるかについてもご意見いただきたい。

委員長

足りない部分がたくさんある。その一方で読みやすさは重要で、取捨選択は難しい。

委員

MY 行動宣言は、国家戦略の「市民の役割」に記載されているツールであり、その前提が抜けている。これをどのように地域戦略に落とししていくかの議論が必要。事業者宣言を可視化するのはよいが、お飾りではない。これも行動計画に反映させていくべき。8 ページの年表に「生物多様性の 10 年」が抜けている。日本が提案して国連が決めたことなので重要。

事務局

今の 3 点については、盛り込めるものは盛り込むように今後検討する。

事務局

「生物多様性の 10 年」と先程の「基本法 13 条」の件について。資料編に載せる場合は本編に注釈を付け、わかるようにする。事業者宣言については、行政サイドだけで決められない部分もあるので、こういう形で記している。今後、検討する。

委員

区民としては読みやすい。フォントも大きく、内容もわかりやすく書いており、好感が持てた。しかし、19 ページ下の図 2 などは、字を大きく、見やすく工夫した方がよい。7 ページ下から 3 行目の引用が欲しい。

委員

2 章はいろいろな人が読むところであり、わかりやすく書いて欲しい。例えば 20 ページの

写真について、現在の写真も並べると関心を持たれやすい。23 ページの表が、ざっくりしすぎているので、もう少し詰めるべき。30 ページの絶滅危惧種の注釈は、34 ページと同じ文章が使われており、もう少し工夫した方がよい。35 ページの生態系の攪乱について「開発」が抜けているのではないか？

事務局

これまでの資料には載せていたが、文字数削減等の編集の過程でなくした。資料編に載せることになるが、どれくらい載せるかについては検討する。

委員

湿地が減ったため動植物が減ったなど、動植物にとって土地利用が変わったという程度のことは載せて欲しい。

委員長

生態系を攪乱するものが2つしかないのは片手落ち。最初に全体的なことを述べ、その中で特にこの2つが重要という構成にするとよい。緑地の変遷など、載せられる資料はぜひ資料編には載せていただきたい。

委員

33 ページの表について、動物と植物が入り乱れていてわかりにくい。土壌動物は分類群ごとに分けた方がわかりやすい。

委員

36 ページの気候変動の中に適応策の視点を入れる必要がある。生物多様性のなかに気候変動の問題は含まれている。

委員

1～2章について、図と年表は分かりやすくする必要がある。6 ページの「生物多様性は3つのレベルがあります」という表現はおかしい。これらは連続的になっている。アンケートでは合計の数値がないなど見にくい。イベントは「食」、「子育て」、「仕事」の3つの軸でやってきたが、これが消えてしまっているのはもったいない。57 ページの図も3つの軸をフォローするような書き方とし、3つの軸をクリアーにすべき。

委員長

アンケートについては何が重要な点かが一目ではわかりにくく、整理が必要である。

(3) 第3章、基本理念と将来像について

―事務局より、3章について資料6、資料7を用いて説明し、質疑応答を行った。

委員長

基本理念と言っているのも基本的に目標にあたる。

委員

いきなり2050年の将来像になっているが、愛知目標を達成する2020年がもっと大事。ティッピングポイント（臨界点）を超えてしまったら元に戻れないという考えで、愛知目標で2020年が決められている。2050年だとティッピングポイントを超えてしまう可能性もある。それを理解して書かないといけない。

委員長

確かに、4章には書かれているのに、3章からは消えてしまっている。

事務局

2020年にどこまでやれるかで、行動計画を立てている。明確に記載する。

委員

2014年の生物多様性条約事務局に提出する国別報告書があって、生物多様性条約事務局の中間レビューに合わせて国家戦略を改定する動きもある。そういう点からも、2020年の目標は重要である。

委員

表と難しい文章の多いなか、69～72ページのイラストは分かりやすい。改善点として、まず70ページの上の図に自動車専用レーンが欲しい。これがないと以前と変わらない光景になる。また、港区は海に面しているので、海上風力発電とか養魚場など、海の絵が欲しい。

委員

以前の資料に、土壌がCO₂削減にも寄与すると書いてあったと思うので、そうしたこともぜひ描いて欲しい。ミミズが顔を出しているとか、土壌生物や土の視点を入れたい。

委員

69ページを見ただけでは将来像の全体像が分かりづらい。何をしたらいいのかなど、構成的に1度読んだだけでは理解しにくい。絵は最後にまとめた方がよいのではないかな。

事務局

同じようなものが繰り返し出ていること、場面展開が何ページにもわたっていることは改

善する。絵の見せ方についても工夫する。

委員

将来イメージのイラストのなかで、気候変動について絵に入っているのは緩和策だけである。適応策をどう考えるかが大事。世界的にもそうになっている。都市生活の中で適応策はどういうことかを考えることは都市計画においても重要であり、災害や防災、温暖化に対する備えを書かないといけない。

事務局

地球温暖化対策では適応策について書いている。生物多様性と絡めると唐突感があるかもしれないが、工夫する。

委員

ミレニアム生態系評価では4種類のシナリオ選択肢の絵がすでに示されているので、それをそのまま利用すると分かりやすいかもしれない。そのあたりの資料は重要なので整理する必要がある。

委員

事前送付資料と比べて、行動計画について、目標2の3項目のうち2項目が消えているが、地域戦略でやるものでないから除いたということか。

事務局

生物多様性を理解しやすくするために、スリム化を図っている。温暖化対策には取り組んでいるが、生物多様性として今やるべき重要なことがわからなくなることを懸念して、今回一旦外した。

(4) 第4章、第5章 行動計画と推進体制他について

―事務局より、4章、5章について資料7～9を用いて説明し、質疑応答を行った。

資料8は最重点と重点を取り上げた例を用意した。目標について、以前は5つになっていたが今回は4つにした。今日お渡ししたのが最新でこれに沿って進めていきたい。13日に庁内委員会が終わった段階で、その意見も踏まえて改めてお渡ししたい。

委員長

目標は、資料編P9のCOP10の愛知目標の枠組みを参考に整理した方がよいのではないかと。取組は複数の目標に関連するので、1:1ではなく、横断的に見ていく必要がある。

事務局

区の手法で修正した。例えば、区では 50 年先のスケジュールはない。長期を外したほか、文言の修正も行っている。13 日に庁内会議があり、残りはその段階でお渡ししたい。

委員

港区の職員には分かりやすいかもしれないが、区民が読んで理解してもらえる資料を作ることが大事。ベースラインデータと数値目標は最重要。国もやっているのだから、港区もやるべき。

事務局

数値目標はできるだけ載せる。区民向けの資料については、ほかの資料も同じ形式で 7~8 年でまとめており、区民にも理解されていると認識している。よりわかりやすくという趣旨は理解しているので、それを踏まえて記述する。

委員

生物多様性の普及啓発は難しいので、暮らしに置き換えていかないといけないといった議論があった。ミレニアムアセスメントでも、人類の福祉につなげて整理している。福祉の観点をしっかり入れていく方がいいし、港区らしい。

委員

生物多様性については、どのようにまちづくりを進めていくかということも重要。

委員

普及啓発について、生きもの作戦会議で 3 つのテーマをあげたが、それをあげた根拠を示す必要がある。企業の表彰制度の創設は非常に重要。「生物多様性みなとネットワーク」を形骸化させないためにも、事業者だけのネットワークを作るなど焦点を絞り、動かしていく仕組みについても考える必要がある。

委員長

港区の特殊性をもっと先に出すとよい。例えば、ハブになる地域であり、そういうアドバンテージがあることをはっきり示して、戦略につなげていくとよい。

―事務局より、資料編、参考資料集等について資料 3 をもとに説明し、質疑応答を行った。

概要版については英語版を作りたいと考えている。

委員長

分量の問題は、印刷費が高くなるということか。

事務局

厚くなると読む人が減ると考え、分量を抑えたい。

委員長

資料編にデータはたくさんあるのがよい。ネットでの公開もありうるのではないか。

委員

3部作にすると使い勝手がよいのではないか。例えば、学校教育・普及啓発では、理念は有用であるが、行動計画の部分は無用。現場の人は行動計画が重要。今後、委員で分担執筆して分かりやすい本を作成するのもよい。イギリスでは戦略と行動計画を分けて作っている。

委員長

2分冊であればいくつか例がある。前半は学校教育の教材に使いたい。

委員

行動計画は行政の目線で書かれている。主役は誰か？という視点が欠落している。主役は私である。理念の書き方として、スケール感、3つの柱がいつの間にか消えてしまっている。都市を世界的な視野で考える必要がある。行政の目標と区民の目標をもう一度整理した方がよい。将来像について、分解して断片を書いているが、もう少し大きなレベルでの絵が欲しい。

委員

生物多様性基本法の前文を掲載して欲しい。福祉に関する件をはじめ、我々が何をすべきかが書いてある。コラムでもどこでもかまわないのでぜひ入れて欲しい。

委員長

3章のイラストについて、区民がどうしたらいいのか、私に何ができるかといったことを表現したらよいのでは。例えば、4コマ漫画でもよい。

委員

流域単位での配慮が、弱くなっている印象がある。流域の連携も視野に入れて欲しい。区民が取り組むことは、ライフスタイルを変えることに尽きる。そうした意味で目標2の取り組みは重要。区民の視点で、ここが柱になるような図があるとよい。

委員

目標がやや抽象的。現状の評価が明確にされていないなかで数値目標は立てづらい。数値目標については議論の必要がある。今後議論を積み重ねていくなかで、見直しや中期目標等のステップなども含めて言及するとよい。生物多様性がいかに人の豊かさにつながるかが、詰め切れていない。多くの区民が豊かさを体験し、実感できることが大事。生物多様性に関連する

取組の紹介が2章であるが、現状の評価が必要である。また、これを、行動計画にうまくつなげるように加筆する必要がある。

委員長

数値目標を多くあげるとは重要だが、妥当かどうかはしっかりと考える必要がある。

委員

国では、第2次国家戦略の時に現状を徹底的に調べてベースラインを作っているが、区はそれをしていないので、現状のような話になっている。今、何が分かっているかがわからないかを書く必要がある。エコロジカル・フットプリントは一つの指標。持続可能な資源の利用としての様々な認証制度もデータに基づいているので、ぜひ参考にしていきたい。

委員

数値目標について、事業者としては根拠のない数字や目標はつらい。区民としても分かりやすい目標がないとつらい。資料8のボックスの中に目標が書かれているが、ベースラインデータがあって数値目標を出すのは、そう簡単ではないと思う。

委員

WWFは、エコロジカル・フットプリントを算出する仕組みを持っているので、必要であれば提供する。

委員

仮に試算したところ、港区の米の自給率を5%にすると、水田80ヘクタール、つまり200㎡の屋上水田4,000棟分が必要である。これは港区の中高層建築の23%でしかない。このように、港区は非常に特徴的な場所で、まだ使っていないポテンシャルもたくさんある。コラム的でよいので、港区が特殊な場所であることを入れたい。2050年の将来像に独自性がない。誰かの何らかのアクションにつながるように丁寧に書くべき。港区らしさと港区の人の具体的なアクションにつながるリアルな文章があるとよい。

委員

調査や観察会に参加できる人は少ない。もっと個人でできるものはないか。港区にはマンションが多い。アンケートの中でも、これまで参加したことのある活動のトップはベランダの緑化である。

港区でプランターを大量に仕入れて安く販売したり、公園などで堆肥をつくり、無料配布するとよい。野菜を植えれば地産地消となるし、花や草花を植えれば虫が集まる。水場を造ったり、冬にはエサを与えれば鳥を呼ぶこともできる。みんなで協力すれば、マンションが一つ

の森になる。また、日常的に自然とのつきあいができるようになる。そのための易しいガイドブックを作り、普及する必要がある。

委員長

緑のカーテンなど、すでにやっているものと絡めればいい。家庭菜園で使われている殺虫剤の問題があるので、これを減らす取り組みをしていくとよい。

委員

普及啓発ツールの区民版、企業版、子ども版など、いろいろなものが考えられるので、ターゲットを明確にしてぜひ実践して欲しい。2020年と2050年の目標のメリハリが必要。

委員

ベランダ緑化は、ステッピングストーンとして緑地から街路樹、ベランダがつながるのでよい。農薬を使わないことの利点や自給自足、食生活についても学べる。FAO（国際連合食糧農業機関）の試算にあるとおり、肉食にすると、穀物飼料の割合が増え、食糧効率が低下するというこも入れたい。

閉 会

事務局

今後の予定として、連絡シートをお寄せいただきたい。

目標値の提案、戦略の名前（タイトルとサブタイトル）、資料編に付けるものの提案をお願いしたい。

以上